

令和5年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・(低) タブレットで作品を撮影したことで作品を振り返ることができた。鑑賞カードでお互いの作品の良さを確認し、認め合うことができた。道具の使い方を始めに見せて確認することで、全員が使えるようにした。
- ・(中) 道具の使い方などを動画などで確認したことで、学期の終わりには使えるようになっていた。最初にしっかりと道具の使い方について指導した。身近な物を使って作品を作ったことで、創意工夫が見られた。
- ・(高) ICT 機器を使って作品の写真や考えたことを記録していくことで、長い時間をかける題材でも自分の活動意欲が途切れることなく活動する様子が見られた。

(2) 課題

- ・教員によって絵の具の指導の仕方が変わるため、絵の具の基本的な使い方には定着度に差がある。(知識・技能)
- ・児童によって発想構想に必要な作品情報に差があり、導入で情報を出しすぎると似たような作品が増え、情報が少ないと活動に取り掛かれない児童が増える。(思考・判断・表現)
- ・造形遊びをするための材料や、学校の実態に合った題材内容が少ないため、校内で活動に取り組む意欲が高まる指導内容を系統立てて計画する必要がある。(主体的に学習に取り組む態度)

2 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
絵の具の使い方の指導事項を学校で統一し、基本的な使い方の知識・技能の定着を図る。	カメラなど簡単なICTの機能を使用して活動の振り返りを記録することで、児童が考えた内容をアウトプットして思考の幅を広げたり、他の考えから新たな想像を広げたりできるようにする。	造形遊びの活動を学校内で系統立てて指導し、様々な素材と出会い、手や体の感覚などを働かせてつくったりつくりかえたりする活動の楽しさを感じられるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
絵の具の使い方の指導事項を学校で統一し、知識・技能を定着させるとともに、絵の具の表現の違いに気づくことができるようにする。	ICT 機器を使用して活動の振り返りを記録することで、児童が考えた内容をアウトプットして思考の幅を広げたり、他の考えから新たな想像を広げたりできるようにする。	造形遊びの活動を学校内で系統立てて指導し、様々な素材と出会い、手や体の感覚などを働かせてつくったり、つくりかえたりする活動の楽しさを感じ意欲を高められるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
絵の具の使い方の指導事項を学校で統一し、知識・技能を定着させるとともに、表現したいことに合わせて絵の具の表現の工夫を見童自身が選べるようにする。	ICT 機器を使用して活動の振り返りを記録することで、見童が考えた内容をアウトプットして表現の幅を広げたり、他の考えから新たな想像を広げたりできるようにする。	造形遊びの活動を学校内で系統立てて指導することで、全学年までに経験した材料や用具の表現方法を活かし、主体的に学習に取り組む態度を養う。